

令和2年度 学校教育自己診断について

○令和2年度における質問項目の選定

昨年度までと同じ質問で実施した。昨年（令和元年）度との比較対象を行う中で、学校としての取り組みを客観的に把握し、適正な目標を設定するためである。

○アンケートの回答形式

全てマークシート方式とし、特別な意見を吸収するために記述スペースを設けた。保護者、生徒、教職員とも、回答については、A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない、判断に困る場合は「未記入」、の5種類とした。

○アンケートの実施方法

生徒は12月25日（金）のHR時に教室で行った。

保護者は1月7日（木）に生徒を通じて配布、22日（金）までの期間に回収。

教職員は1月7日（木）に職員会議で配布し、15日（金）までに職員室の提出箱に投函してもらう。

○回答数

	総数（回収率）	2019年度総数（回収率）
保護者アンケート	798（全体の84%）	707（全体の72%）
生徒アンケート	939（全体の98%）	979（全体の100%）
教員アンケート	48（全体の75%）	46（全体の70%）

*2019年度は3年生が1クラス増であった。

○比較分析の方法

A・Bを合計した数／回答数・・・「肯定率」とする。

また、A／回答数 B／回答数 C／回答数 D／回答数もそれぞれ算出する。

前年度のデータと比較することで、学校運営に対する評価を分析検討する。

(1) 保護者アンケートについて

肯定率の平均 81.6%（前年比 1.4%減） 筆答 1年34 2年19 3年12 計65件

昨年に比べ、少し減少したが概ね高い評価をいただいた。コロナ禍のため、授業参観 66.3%（22.3%減）やPTA活動 73.8%（12.4%減）には支障があった。大幅な減少が見られたのはそのせいかと思われる。一方、HP76.9%（12.2%増）は、更新を頻繁に行い、学校と家庭の連携に例年以上に貢献したため高評価につながったと考えられる。

筆答では例年と同様、施設面や教育活動全般（授業・部活動等）に対する要望が中心であったが、今年度は新たにICT教育の充実を望む声が見られ始めた。

(2) 生徒アンケートについて

肯定率の平均 87.2% (前年比 6.5%増)

筆答筆答 1年4 2年28 3年11 計 43件

10%以上上昇が見られたのが、**災害時等の行動** 90.6%(12.0%増)、**授業のねらいやポイント** 89.4%(16.5%増)、**ボランティア活動** 85.1%(13.6%増)、**本校の特色** 84.5%(10.1%増)の4点。生徒はコロナ禍での本校の取り組みを肯定的に評価してくれた。

一方で唯一マイナスだったのが、**放課後講習** 72.8%(1.8%減)。数値としてはわずかだが、大変貴重なデータだと考えている。

筆答回答が例年に比べ少なかったのも特徴の一つである。

(3) 教職員アンケートについて

肯定率の平均 73.6% (前年比 2.6%減) 筆答 8件

アンケート総数が少ないため、例年増減幅が大きくなる。

「肯定率」では、8,7,20 **教科活動**、23 **部活動**、20,29,5,22 **生徒支援活動**について、高い評価が得られた。「肯定率の上昇」でも、12 **評価についての話し合い** 73.3%(14.2%増)、9 **総合的な探究の時間** 80.9%(11.1%増)などに大きな上昇が見られた。

一方、「肯定率」で10%以上も減少した項目が11項目ある。なかでも、38,37,45 **職員間の連携やコミュニケーションに関する項目**が目を引く。今年にはコロナ対策に加え、ICT教育、新学科設立準備、新入試、新カリキュラム、新評価システム等の対策に追われた一年であったが、それらによる業務負担の増加に加え、コロナ禍での「密」を避ける日常なども原因として考えられよう。いずれにしても、より慎重で深い考察が望まれる。36 **各種会議**(肯定率51.1%)のあり方とも関連するだろう。

なお、「肯定率」が最も上昇したのは42 **清掃** 70.0%(20.0%増)であった。

以上